◆インフォメーション

文月の図録市

もりおか歴史文化館では、開館記念月にあたる7月に一部図録を半額にて 販売いたします。

●対象期間:2023年7月1日~31日 ●対象図録:2018年度までに刊行された図録



あの日あの時の盛岡 -馬のいた風景-

(2014)500円…

-----▶250円



旅の枝折 -みちのく観光のみちしるべ-(2015)500円······**≥250**円



盛岡の指定文化財 一未来へのおくりもの一 (2015)700円······▶350円



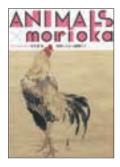
盛岡南部家の生き方・第1部 --乱世を切り抜けた南部家と盛岡のはじまり--(2016)1,000円······▶500円



南部鉄器 ―時代を超えた鐵の美― (2016)1,000円······▶500円



盛岡南部家の生き方・第2部 ―揺らぐ盛岡藩に立ち向かう南部家― (2017)1,000円 → 500円



ANIMALs×morioka -資料のなかの動物たち-(2017)700円······▶350円



盛岡南部家の生き方・第3部 -盛岡藩の終焉と南部家が繋ぐ未来-(2018)1,000円 → 500円



衣装と意匠 -武家のよそおい-(2018)700円······▶350円

ご利用案内

〈開館時間〉4月~10月 9:00~19:00(2階歴史常設展示室への入場は18:30まで) 11月~3月 9:00~18:00(2階歴史常設展示室への入場は17:30まで)

〈休 館 日〉毎月第3火曜日(祝・休日の場合は翌日) 12月31日~1月1日 〈入 館 料〉入館は無料です。

> 2階展示室のみ有料となり、右記の 入場料が必要となります。

12/35111 1/3111		
	個人	団体 (20 人以上)
小・中 学 生	100円	80円
高 校 生	200円	160円
— 般	300円	240円

- ○障がいをお持ちの方やその介護をなさる方(付添いを含めて2人まで)は、無料で入場できます。
- ○盛岡市在住で65歳以上の方は、入場料が免除されますので、係員に証明書等をご提示ください。
- ○盛岡市内の学校に就学している小・中学生の方は、入場料が免除されます。
- ○企画展をご覧になる場合は、別途入場料が必要となる場合があります。

- 〈交通の案内〉 ●電車をご利用の場合 ○JR盛岡駅下車 徒歩20分 ●バスをご利用の場合 ○岩手県交通・岩手県北バス
 - ●車をご利用の場合 ○盛岡IC・盛岡南ICから車で25分
 - ※当館の敷地内に一般車両の駐車スペースはございません。隣接する「盛岡城跡公園地下駐車場」(有料) など近隣の駐車場をご利用ください。

所在地・交通のご案内

Tel:019-681-2100 Fax:019-652-5296 https://www.morireki.jp/

Rekibunkan News Vol.

◆館長だより「ふたば」vol.11

◆名誉館長就任のお知らせ

◆2022年度事業報告

- ◆歴文館レポート 特別展「南部鉄器展2022」
- ◆歴文館レポート 第4回もりおか歴史文化館自由研究コンクール
- ◆歴文館スタッフ伝言板
- ◆インフォメーション



ひ らしゃじじんばおり 緋羅紗地陣羽織 安土桃山時代 国指定重要文化財

陣羽織は、武士が戦場で甲冑の上から羽織る上着の一種である。この陣羽織の裾と袖はボタンで留められており、 袖の有無・裾の長さの変更が可能で、様々な着方ができる。鮮やかな赤色は、サボテンに寄生するエンジムシから抽出 した貴重な染料であるコチニールで染め上げられたもの。能の演目「猩々」において用いられる装束の色から「猩々緋」 とも呼ばれる。実用性と南蛮文化の美を兼ね備えた特異な意匠で、初代藩主 南部信直の所用と伝えられる。







もりおか歴史文化館(「歴文館」)は、2023年7月1日に開館12周年を迎えました。これに先立って4月9日には来館者250万人を達成し、谷藤裕明盛岡市長の御出席のもと、記念式典を開催いたしました。250万人目のお客様となった滝沢市の御家族には記念品を贈呈させていただきました。これまで御来館いただいた多くの方々に深く感謝を申し上げます。

さて、コロナ禍が始まってから既に3年半が過ぎようとしております。5月8日には感染症法上の分類が引き下げられ、行動制限が緩和されるなど、市民生活や社会経済活動も日常を取り戻しつつあります。

また、1月にニューヨーク・タイムズが「2023年に行くべき52か所」を発表し、ロンドンに次ぐ2番目に 盛岡市が紹介されました。その反響は大きく、国内外から多くの観光客が盛岡市を訪れております。御 推薦いただいたクレイグ・モド様には本当に感謝しております。「歴文館」におきましても、来館者数がコ ロナ禍前の水準に回復しつつある中で、外国人の比率はコロナ禍前を上回っております。昨年は、多言 語音声ガイドシステムの導入、今年も外国人来館者向けアンケートの実施や館内の案内表示の見直し を行うなど、外国のお客様にもきめ細かなおもてなしができるよう努めております。

ゴールデンウィークには、「歴文館」主催の特別イベントとして、昨年3年ぶりに復活した「盛岡さんさ踊り公演」や今回4年ぶりとなる「盛岡山車太鼓打ち体験」を開催し、コロナ禍前を上回る多くの方々に御参加いただきました。参加された皆様は、お祭りを本当に心待ちにしている様子で、本番も大いに賑わうものと期待されます。御協力いただいた盛岡さんさ踊り実行委員会、盛岡山車推進会の皆様に心から御礼を申し上げます。

昨年11月には、南部家第46代当主南部利文様に「歴文館」の名誉館長に御就任いただき、「歴文館」とその事業をはじめ、盛岡市の歴史文化の普及啓発等に関し、様々な形で応援していただいております。

また、「歴文館」をより多くの方々に知っていただくため、ウェブサイトやSNS等を活用した情報発信に引き続き力を入れるとともに、広報・PR活動に御協力いただく「れきぶんひろめ隊」を新たに結成し、この7月から活動を開始しております。

これからも「歴文館」では、南部家や盛岡藩に関わる企画展やテーマ展、講座や各種イベント等を積極的に開催してまいりますので、御来館いただければ幸いに存じます。

令和5年7月1日

もりおか歴史文化館 館長 柴田 道明

◆名誉館長就任のお知らせ

昨年、2022年11月28日付で第46代南部家当主 南部利文氏がもりおか歴史文化館名誉館長に就任いたしました。 当館は南部家関係資料を多く収蔵しており、盛岡藩・南部家に関する歴史常設展示や展覧会を中心に据えた事業を 展開しています。2021年に開館10周年を迎え、当館の運営及び事業活動のさらなる充実に資するため、南部家当主 を名誉館長に迎えることにより、さらなる発展を目指します。

ごあいさつ

なん ぶ とし

第46代南部家当主 南部利文でございます。この度はもりおか歴史文化館より名誉館長就任のお話をいただきましたこと、その名のとおり誠に名誉なことであり、快諾した次第であります。

2021年に開館10周年を迎え、南部盛岡藩の通史を最新の技術で解説する歴史常設展をはじめ、「南部家の生き方」や「殿さまの1年」など盛岡南部家にまつわるさまざまな歴史を来場者の方に分かりやすく、また興味を抱かせる工夫を凝らしながら企画展を開催してまいりましたことに感銘を受けておりました。これまでの皆さまのご尽力と熱意に感謝を申し上げます。

ご存じのとおり、この盛岡という町は初代盛岡藩主 南部信直によって城が築かれ、現在に至っております。ここ、もりおか歴史文化館が城の一角に有り、多くの至宝が収蔵され市民の皆様や多くの方に盛岡の歴史が発信されていることを嬉しく思います。

これからは名誉館長という名に恥じないよう、私も今一度、南部家と盛岡藩の伝統と文化を学び直しつつ、後世に伝えるべく研鑽してまいります。館長をはじめ、指定管理者であるもりおか歴史文化館活性化グループの皆様と共に、微力ではありますがもりおか歴史文化館のさらなる発展と事業の充実に努めてまいる所存でございます。

皆様方の格段のご協力をお願い申し上げ、就任のあいさつとさせていただきます。

どうぞよろしくお願いいたします。

もりおか歴史文化館名誉館長

第46代南部家当主 南部 利文



〈プロフィール〉

1970年生まれ。2009年に第46代南部家当主となる。 盛岡藩ゆかりの祭りや事業に関わり、講演会などにも 積極的に出演するなど多方面で活躍している。

2009年 南部恒産株式会社代表取締役

2009年 宗教法人櫻山神社総裁

2015年 学校法人学習院評議員

2016年 岩手県神社総代連合会会長

2018年 学校法人学習院父母会監査監事

2022年 もりおか歴史文化館名誉館長

1

第35回企画展「南部家のたしなみ -舞う・点てる・聞く-」

【担当学芸員:小原祐子】

2022年4月20日(水)~6月30日(木)

2021年度に引き続き、江戸時代の南部家の人々が学んでいた学問や芸事について、能楽・茶道・香道を中心に南部家ゆかりの資料を紹介しました。江戸時代の南部家の学びについて見なおすことで、現在の私たちの学びについて考えを深める展示でした。展示資料の一つで江戸時代から南部家の宝物として大切に保存されてきた能面をチラシに原寸大で掲載し、それを使ってお面を作成できるように工夫しました。多くの方に興味を持っていただき、江戸時代の南部家の人々が自分を高めるため日々稽古に励んでいた様子を知っていただくことができました。



第36回企画展「殿さまの1年 - 盛岡藩年中行事を紐解く-」

【担当学芸員:熊谷博史】

2022年8月1日(月)~10月17日(月)

盛岡藩や南部家で作成された「年中行事書」を紐解きながら、盛岡藩主南部家の1年を追うことで、殿様の具体的な姿を知っていただこうと企画しました。1年間のうちに決まった日や期間に行う「年中行事」は現在でもたくさんありますが、なかには江戸時代から引き継がれている行事があります。逆に現在では見られなくなった幻の行事もあり、江戸時代と現在を比較しながら、殿様をより身近に感じていただけたのではないかと思います。本企画展に合わせて作成した図録は、現代人にも馴染みのあるスケジュール帳風に仕上げてみました。



____ほうゆうかん

第37回企画展「宝裕館コレクション寄贈40周年記念展 裕かなる宝」

【担当学芸員:福島茜】

2022年12月3日(土)~2023年2月20日(月)

107点の美術工芸品からなる「宝裕館コレクション」は、当館収蔵の絵画の大半を占める非常に重要なコレクションでありながら、これまで「コレクション」という一群としての調査や検証をされてきませんでした。本展は、このコレクションの寄贈40周年を記念して開催したものです。特に岩手県や盛岡市とゆかりの深いものをピックアップし、寄贈者のご協力を得ながら収集や寄贈の経緯と共にご紹介することで、本コレクションの意義や博物館が資料を収集する目的についても、改めて広く知っていただくきっかけとなる展示を目指しました。



◆歴文館レポート 特別展「南部鉄器展2022」

【担当学芸員:小西治子】

2023年3月12日(日)~3月26日(日)

ここ盛岡が、盛岡藩の城下町として栄えた江戸時代。この時代に多くの工芸品が生まれ、そのひとつである南部鉄器も藩内で鉄器づくりに必要な鉄や砂、木炭などを得られる好環境と、藩主南部家の奨励のもと発展を遂げていきました。そして幾多の盛衰を繰り返しながら、現在までその技術は受け継がれています。

本展では、現役の職人たちが2022年度までに制作した作品を中心にご覧いただきました。2020年に入り新型コロナウイルス感染症の拡大が始まり、完全に収束するに至っていない状況の中、南部鉄器協同組合をはじめ、各工房の皆様から多大なご協力を賜り、無事に開催することができました。盛岡市を中心に工房を構える職人24名から、あわせて64点もの力作が集まり、どれも伝統の技術を守りながらも、その時代・暮らしにあった姿形を模索し、新たなことに挑戦し続ける熱意が伝わってくる作品でした。



当館が主催者として現役の職人による作品展を開催したのは一昨年の特別展「新作南部鉄器」(2020)からです。それまでは南部鉄器協同組合青年部の皆様が主催していた「南部鉄器青年展」の会場として当館を使用してくださる機会に恵まれていたのですが、2019年にその事業が終了することになりました。私たち職員は毎年新たな作品を見ることができるのを非常に楽しみにしており、またこのままでは盛岡を中心とした地域の南部鉄器職人、特に若手職人たちの作品を工房の枠を超えて広く公開する定期的な場が盛岡から無くなってしまうのではという危機感を抱きました。そこで南部鉄器協同組合、同組合青年部の皆様と相談し、2020年に「新作南部鉄器展」を開催。そして今回は南部鉄器協同組合と共催という形で開催させていただくことができ、改めて関係各位に対し、厚く御礼申し上げます。

会期中は多くの皆様が本展に足をお運びくださり、アンケートには作品に対するたくさんのご感想と次年度以降も開催を望む声をいただきました。また出品者をはじめ南部鉄器の関係者の方々も多く集まり、それぞれの作品について真剣に話し合う姿やじっくりと観察する姿が見られ、職人の皆様の向上心に頭が下がる思いです。

またこの展覧会の時期にあわせて、テーマ展「盛岡藩の職人 - 釜師・鋳物師-」(2023年2月22日~5月15日)を開催し、現在の南部鉄器の源流となる江戸時代の職人たちに焦点を当てた展示も歴史常設展示で開催しました。

今後も岩手県、盛岡を代表する伝統工芸である南部鉄器の歴史と伝統を次世代へと伝えることに繋がる展示を行っていけるよう努めていきたいと考えています。



 $\boldsymbol{3}$

【担当学芸員:太田悌子】

2022年10月29日(土)~11月13日(日)

もりおか歴史文化館自由研究コンクール、通称「モリガク」は2018年から活動を開始した歴文館サポーターズふたば (2019年度まで活動)の事業企画部に所属していた、市内の現役高校生の提案から始まりました。

江戸時代に盛岡藩の城下町として発展し、魅力的な歴史と文化が息づいているここ盛岡ですが、そのことを知ってい る、または知ろうとする大人が少ないのではないか?どうすれば幅広い世代に興味・関心を持ってもらえるか、盛岡に愛 着をもってもらえるか考えた結果、小学校で夏休み・冬休みに課題としてだされる自由研究がそのきっかけになるのでは …ということで、企画は実行に移されました。

2018年度に第1回、2019年度に第2回モリガクを開催し、盛岡の歴史や文化に対する探求心、地元への愛着が感じ られる数々の力作が集まりました。2020年度は残念ながら新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止いたしました が、前年度同様、2022年度も対策をとり、第4回モリガクを開催いたしました。遅くなりましたが、ご応募いただいた12名 の小学生の皆様、力作のご応募ありがとうございました。



全体の情景

第5回モリガクも、小学生の皆様のご応募をお待ちしております。盛岡 の魅力を多くの人に知ってもらいましょう!

4年ぶりに行動制限のない今年の夏休み、皆さんはどのように過ごす 予定ですか?もりおか歴史文化館では、モリガクに先駆けて夏休みに「自 由研究電話相談室」を開催いたします。微力ながら当館の学芸員が「自由 研究相談室」でお助けいたします。自由研究は学校での展示の後に、ぜひ モリガクへご応募ください!



【最優秀賞】「オッ!とウフフ♥なおとうふ盛岡」



【館長賞】「ぼくのすむまち「しもよない」の はしのいまとむかし」



【花咲賞】「南部氏の歴史 武田家とも つながっていた!?」

《令和4年度受賞作品》※学校名、学年は受賞時

【最優秀賞】「オッ!とウフフ♥なおとうふ盛岡」

【優 秀 賞】 「もりおかのれいめんがおいしいのはなぜだろう」 「青山小学校のまわりにある歴史のある建物巡り」

「城下町盛岡旧町名巡り」

【館 長 賞】「ぼくのすむまち「しもよない」のはしのいまとむかし」

【花 咲 賞】「南部氏の歴史 武田家ともつながっていた!?」

飯岡小学校 4年生 相浦美咲さん

岩手大学附属小学校 1年生 山田千彩 さん 青山小学校 4年生 平澤 樹さん

仙北小学校 6年生 藤倉舞夏莉 さん

山岸小学校 1年生 矢羽々幸星 さん

高松小学校 5年生 澁 谷 昴 志 さん

第5回もりおか歴史文化館 自由研究コンクール

応募期間:2023年8月26日(土)~9月30日(土) 作品展:2023年10月28日(土)~11月12(日)

※詳細については、応募期間が近づきましたら当館公式 ホームページなどで、情報を公開いたします。

自由研究電話相談室

小学生を対象に「盛岡の歴史・文化」をテーマにした自由研 究についての相談を電話(019-681-2100)で対応します。

日時:2023年7月29日(土)~8月6日(日) 各日10:30~12:00/13:00~15:00

※1回のお電話につき、30分が目安となります

◆歴文館スタッフ伝言板

【アテンダントグループ:大櫻薫】

長く観光の仕事をしてきて、観光とは「光を観る」ことだと感じています。年明けにニューヨーク・タイムズの紙面で 「2023年に行くべきところ」として盛岡が紹介されてからというもの、盛岡の「光」を求める人々が国内外から大勢いらして いることに喜びが尽きません。光は至る所に在り(または差し込み)、決まった形をしていないからこそ自分なりの光を見つ けた時の感動はひとしお。それは何らかのスタイルで分かち合いたいという行為につながり、更なる拡がりを見せてい ます。

昨年4月、わたしは当館に配属となりました。東日本大震災直後の開館以来12年間、ほとんどの企画展を観覧しては いたものの、配属によって初めて得た思いもあります。

当館の学芸員は収集した貴重な資料を適正に保管し、その資料について厳格な研究を重ね、研究対象に深く潜り、同 時に俯瞰しては学び取り、年間いくつもの企画展示を公開しています。その企画の根底には資料そのものと盛岡藩・南部 家への大きな敬愛があり、「新鮮かつ多面的な切り口」や「観覧者が開けたくなる次の扉」を絶えず探っているように見受 けられます。それらの展示によって我々は、藩主の個性や想像をはるかに超える自律的な暮らしぶり、種々の務めに多忙 を極めるさま、そして往時の営みと現代の暮らしとの意外な共通点に出会い、「知ることで湧き上がる新しい喜び」を感じ 取ることができるのでしょう。

今年度最初の企画展となった「南部家のたしなみ一射る・騒る・撃つー」の図録には、こんな一節があります。「彼らの 書画の価値を上手い、下手という観点だけで単純に判断できるのだろうか~中略~どんなに拙い絵であろうが、覚束な い手つきの武芸であろうが、自分が研鑽を積むことが領内の安寧と領民の幸せにつながると信じて行ったたしなみは尊 いのである」。これをしたためた学芸員だけでなくどの学芸員も同様に、膨大な資料を愛あふれるまなざしで企画として練 り上げ、盛岡の歴史文化に遺される光をそっと差し出してくれています。現在はテーマ展として「シロクロトシアツー伯爵・ 南部利淳の木版画-」を開催中。南部家43代当主南部利淳の木版画の才と対象物へのまなざしに心打たれる企画で す。真っ白なTシャツにプリントしたら素敵だなあと想像してしまうボート漕ぎや、蔵書票に仕立て愛書に忍ばせたくなる 葡萄と栗鼠のモチーフを見つけました。当館にお越しになった際にはぜひ2階展示室で「ここだから知ることができる世 界」をご覧になり、ご自身の光を見つけてみてください。



ボート



葡萄と栗鼠